跡見女子大「観光経営人材育成講座」開講

コロナ禍で観光の未来考える

跡見学園女子大学（東京都文京区、小仲信孝学長）は9月6日から、観光関連事業者の経営力向上を図り、観光の活性化につなげる「観光経営人材育成講座」を開講する。「コロナ禍での観光の未来を考える＝インバウンドのセカンドステージでの課題と人材育成～価値創造、空間と交通、ジェンダー、異文化理解、ハラール対応～」がテーマで、受講料は無料。講座開講の意義や受講内容について塩月亮子副学長に聞いた（場所は跡見女子大文京キャンパス）。

――東京都・観光経営人材育成講座は2年目となる。

「東京都の『大学等と連携した観光経営人材育成事業』を跡見女子大が受託し、昨年から実施している。アフターコロナのインバウンド観光再開時を見据えながら、次なる観光ステージでの課題に対応できる人材育成を目指した教育プログラム。教材開発も視野にいれている」

――昨年度の総括を。

「100人以上が登録し、多くが出席した。アンケートの結果から面白いと感じたのは、開講当初にはコロナ禍後のインバウンド対策にピンポイント的な関心を持っていた受講生が、講座を学ぶうち、異文化やハラール対応への興味を強め関心を寄せていったこと。受講生はより柔軟な考え方をもち、多角的な視点から観光を考えられる人材へと変わった。女子大が早くから取り組み蓄積してきたジェンダーやダイバーシティの教育・研究活動の成果を学び、受講後に生かしたいという思いを持った人が生まれた」

跡見学園女子大学
副学長　塩月　亮子氏

社会変化を新たな価値創造に
多様性を認め合う〝おもいやり〟

――今年度の内容について伺いたい。

「昨年は動機づけとして、考え方を伝えることが中心になった。今回は次世代観光のステージを持続可能なものへと育み、実践する人づくりを狙いにしている。今年はじめて受講する人も意識して、ジェンダーや異文化理解、ハラールの基本的な考え方をおさえながら、今後さらに大きな変化が予測される未来の社会をどう考えるかを学ぶ。サブタイトルをみてほしい。価値をつくっているのは誰かということを問いなおした価値創造モデルに基づくマーケティングの考え方や、空間・交通場面の進化、メタバースといった新しい動きを把握する回も加わった。一層の啓蒙をはかり、実践の仕方も伝える。なによりそこから学ぶ人が自分事として、観光を通じて社会をより良くする変革の先導者になってほしい」

――注目してほしい内容はあるか。

「未来を見据えたものとして、次の消費の主役となるZ世代やミレニアル世代のマーケット、ツーリズム市場の対応で覚えておきたいマーケティング手法、社会貢献など持続可能な企業としてあるべき姿についてなど、これらは今後の大事な考え方として、知ってもらいたい。また、女性教員も前回以上に多く携わっており、女性の力にも注目してもらいたい」

――今年度はどのような人たちに受講してもらいたいか。

「東京は、観光に携わる人たちのポテンシャルが高い。たとえばホテルは、コロナの初動時でも、高い機動力、対応力があった。今年もそうした観光の第一線で活躍する人たちをはじめ、多くの皆さまに参加していただきたい。この講座でさらに広い視野を得て、東京の現場で生かしてもらいたい。それが全国的に波及していき、日本の新しい観光につながると思う」

――跡見女子大ならではの特色は。

「跡見女子大では伝統を大事にしつつも、時代の変化に敏感に応じてきた。ジェンダー、ダイバーシティには絶えず目を配ってきた。それらは〝おもいやり〟の実践力につながる視点で、ホスピタリティを必要とする観光の現場でも必須となる。

――最後に、読者に一言いただきたい。

「社会の変化は激しい。でも、それをチャンスだととらえて、大学ならではの広い視野で、実践と理論の双方を学べるこの講座を聞いてもらい、新たな価値創造につなげてほしい」

インタビューは跡見女子大文京キャンパスで

受講料無料、9月6日から

3部制　新たな講師加わり、特色豊かな講座に

従来を超える創造　第1講座

第1講座では、「従来PLUSの事業創造のために」と題し、コロナ禍からの観光需要回復期に向け、〝ただコロナ前に戻すだけではいけない〟というメッセージのもと、未来の経営戦略、ありかたを議論する。

第1プログラムは、「価値創造モデル、MICE、ミレニアル世代とZ世代」。宿泊業のグローバル化に向け、2000年代に提唱されたマーケティング手法の考え方やシティセールスへの活用、今後の消費の主役と見込まれる若者マーケットの消費動向などを解説。

第2プログラムは、まち空間の改良や人々の移動場面の変化への着眼、これからの働きかけをうながす。大阪で先行している官民連携のエリアマネジメント手法、町内で取り組めるような楽しげな空間創出活動。移動の場面では、よりスマートに変わりゆくバス交通、グリーンスローモビリティなどを紹介する。

第1講座第2プログラムのコーディネーター跡見女子大観光コミュニティ学部観光デザイン学科の小長谷悠起教授

近未来に向けた新しい事業創造・ダイバーシティ・ハラール

多様性ふまえた企業経営　第2講座

第2講座では、「社会課題と観光産業」と題し、自社の利益追求にとどまらず、すすんで社会的貢献・調和を担っていく持続可能で未来志向な企業のありかたをさぐる。社会課題の解決をめざす事業経営、雇用や接客現場でのLGBTQの人への理解、サービス現場で活躍する外国籍従業員拡大にむけた人的資源管理、今後の可能性が問われるバーチャル観光などメタバースの世界も紹介。ますます進む社会の変化と人々の多様性への気づきを獲得、サスティナビリティへの理解を深めたい。

ムスリムの可能性　第3講座

第3講座は、昨年度好評だったハラール対応を紹介。「観光におけるハラール対応を」を題に、約16億人市場といわれ、アフターコロナで急拡大が予想されるムスリム観光のありかたを専門家が教授する。第1プログラムでは、ムスリムの宗教観や行動様式、第2プログラムではハラール対応と輸出・物流の現状を学ぶなど、基礎的知識から対処方法の応用など、今後の大きなビジネスに生かせる内容となっている。

東京都との産学連携による
観光経営人材育成講座

開催日程
第1講座　9月6日（火）・13日（火）、10月4日（火）・11日（火）
第2講座　11月8日（火）・22日（火）、12月13日（火）・20日（火）
第3講座　1月17日（火）・19日（木）・24日（火）・26日（木）
※19時～20時半

オンライン　オンライン（Zoom）

対象者　観光関連事業等に従事（予定含む）しており、東京都内に在住または在勤の方

講座内容　コロナ禍での観光の未来を考える
インバウンドのセカンドステージでの課題と人材育成
～価値創造、空間と交通、ジェンダー、異文化理解、ハラール対応～
第1講座　従来PLUSの事業創造のために
第2講座　社会課題と観光産業　―ダイバーシティの観点から―
第3講座　観光におけるハラール対応

参加費　無料

申込等　以下URL又はQRコードから本講座Webにアクセスの上、お申し込みください。
（https://www.atomi.ac.jp/univ/activity/detail/8453/）

定員　50名程度（応募状況により変更となる場合があります。定員に達し次第、受付終了とします。）

募集期間
第1講座　令和4年7月19日（火）～8月25日（木）
第2講座　令和4年7月19日（火）～10月25日（火）
第3講座　令和4年7月19日（火）～令和5年1月10日（火）
※1講座から全講座まで申し込みが可能です。

問い合わせ先
●事業全般について
産業労働局　観光部　受入環境課　藤本、松島
電話 03-5320-4658 内線 36-975
●申込方法・講座内容等詳細について
跡見学園女子大学
観光経営人材育成講座担運営事務局
メールアドレス：atomitokyoseminar@gmail.com

講座のご案内 QRコード

2022年度　講座内容（開催時間：全日程 19:00～20:30）

第1講座　「従来PLUSの事業創造のために」

第1プログラム　「価値創造モデル、MICE、ミレニアル世代とZ世代」

講演1　2022年9月6日（火）
タイトル　顧客の自己実現に向けた価値創造モデルとポストCOVID-19ツーリズム市場の再構築
講師　大野惠子氏　株式会社ベラミモード代表取締役
<ゲスト>　フレデリック・マゼンク氏
フランス観光開発機構 在日代表アジア・太平洋・中東地区統括責任者

講演2　2022年9月13日（火）
タイトル　消費を担うキーマーケット：ミレニアル世代とZ世代
講師　大野惠子氏　株式会社ベラミモード代表取締役

第2プログラム　「まちと移動の空間のimprovement　ニッポンの観光場面 未来へむけた攻めどころ」

講演3　2022年10月4日（火）
タイトル　ゆたかな公共空間を地区に創りだす　―視点、担い手、手法のいま―
嘉名氏：「大阪のエリアマネジメントの取り組み」
永野氏：「都市寄生デザインの発想とその実践」
講師　嘉名光市氏　大阪公立大学大学院　工学研究科都市系専攻 教授
永野真義氏　東京大学大学院工学系研究科　都市工学専攻都市デザイン研究室助教

講演4　2022年10月11日（火）
タイトル　交通シーンの近未来　―公共交通が変わる、まちや観光地が変わる―
工代氏：「地方バス事業の方向性　―MaaS、ダイナミックルーティングを中心に」
三重野氏：「グリーンスローモビリティの活用に向けて」
講師　工代将章氏　株式会社みちのりホールディングス広報・マーケテイング担当ディレクター人事担当ディレクター
三重野真代氏　東京大学公共政策大学院 特任准教授

第2講座　「社会課題と観光産業　―ダイバーシティの観点から―」

講演5　2022年11月8日（火）
タイトル　社会課題と観光経営
講師　中西哲氏　跡見学園女子大学マネジメント学部准教授

講演6　2022年11月22日（火）
タイトル　接客とダイバーシティ　ージェンダーの多様性、言語の多様性ー
講師　井澤明穂氏　認定特定非営利活動法人ReBit キャリア事業部マネージャー
中西太郎氏　跡見学園女子大学文学部准教授

講演7　2022年12月13日（火）
タイトル　異文化マネジメントのあるべき姿　ーベトナム文化を中心にー
講師　中西裕二氏　日本女子大学人間社会学部長、教授

講演8　2022年12月20日（火）
タイトル　メタバースと観光ビジネス・地域活性化
講師　中村裕彦氏　株式会社三菱総合研究所　先進技術センター主席担当部長

第3講座　「観光におけるハラール対応」

第1プログラム　「ムスリムの宗教観・行動様式・ハラール」

講演9　2023年1月17日（火）
タイトル　ムスリムの宗教観と食習慣、そしてハラール
講師　阿良田麻里子氏　立命館大学食マネジメント学部教授

講演10　2023年1月19日（木）
タイトル　観光業におけるハラール解釈と消費行動の多様性
講師　阿良田麻里子氏　立命館大学食マネジメント学部教授

第2プログラム　「ハラール対応と輸出・物流」

講演11　2023年1月24日（火）
タイトル　ムスリム観光客への取組み対応の現実　―マニュアル化と認証制度の問題点
講師　福島康博氏　立教大学アジア地域研究所特任研究員
タイトル　ハラール食品のサプライヤー管理
講師　藤原達也氏　千葉経済大学経済学部経営学科講師

講演12　2023年1月26日（木）
タイトル　イスラム諸国への食品の輸出
講師　上嶋友也氏　日本貿易振興機構（ジェトロ）農林水産・食品部　農林水産・食品市場開拓課 調査チーム
タイトル　ハラール対応食品の物流
講師　佐原潤氏　日本通運株式会社　国際航空貨物第六営業部

総合

斎藤茂太賞に佐藤さん

作家会「ホームレス女子大生 川を下る」

日本旅行作家協会（下重暁子会長）は7月27日、東京都内で第7回「斎藤茂太賞」の授賞式を開いた。「ホームレス女子大生 川を下る inミシシッピ川」（報知新聞社刊）を執筆した佐藤ジョアナ玲子さんが受賞し、賞状と記念トロフィー、賞金30万円が贈られた。

賞は同協会初代会長の故・斎藤茂太氏の功績をたたえるとともに志を引き継ごうと2016年に創設。紀行文、エッセイ、ノンフィクションのジャンルから旅に関わる優れた著作を毎年表彰している。今回は昨年発表された142作品の中から協会会員らの審査で同作品が選ばれた。

佐藤さん（左）と日本旅行作家協会の下重会長

著者の佐藤さんは1996年東京生まれの日比ハーフ。東京の高校を卒業後、米国の大学に留学し、その際の実体験を本にまとめた。

今年も欧州ドナウ川で川下りに挑戦し、この日に合わせて帰国したという佐藤さん。「各大陸1本ずつ川を下って、1本ずつ本を書いていきたい」と、受賞に当たり抱負を語った。

国土計画協会　高速道の利用促進と地域活性化
国土協　事業推進プラン募集

国土計画協会は、高速道路の利用を通じた観光および地域交流の推進を図る観点から、高速道路の利用促進と地域活性化につながる事業などを支援する。公益的団体などが主体となって実施する実現可能なプランの募集を1日から開始した。

募集対象事業は①高速道路と地域が相互に連携を図ることによって、高速道路の利用促進と地域活性化につながるなどの事業②高速道路のSA、PA、IC、スマートICなどを活用して、高速道路の利用者および地域住民等の利便向上につながるなどの事業③SA、PAが設置されない新直轄道路等の近隣における「道の駅」や観光施設、地域資源を活用して、観光客および利用者サービスの向上を図るなどの事業④その他本事業の趣旨にかなう事業。

支援事業数は3件程度。支援金は、支援決定後令和7年度末までの計画実現を条件として、1件当たり上限1千万円。

応募期間は10月31日まで。問い合わせ先は、国土計画協会高速道路課☎03（3511）2185。

逆境をチャンスに〈624〉
―旅館の再生プラン

青木　康弘

前回に引き続き、新型コロナ対策による弊害と対策について説明したい。旅館・ホテルではガイドラインにそってさまざまな対策を行い、時短や休業に取り組んできた。しかし、夏休みを控え、稼働率が上昇傾向にある現在では、クレーム発生、口コミ評価低下につながるリスクにもなっている。今一度体制を立て直し、取り組んでいきたい。

沖縄や離島中心にレンタカー不足が再び深刻化の兆しを見せている。もともと公共交通機関が整備されていないことに加え、急激に観光客が増えたことでオーバーツーリズムによる交通公害を引き起こしている。新型コロナの流行でいったんは鎮静したが、つい先日の連休もコンパクトカー1日の料金が離島で2万円を超えるという価格高騰が発生した。運転の手間を考えれば、貸し切りタクシーの方が安いくらいの料金である。新型コロナをきっかけとしたタクシー乗務員の相次ぐ退職も実車率改善を阻み、レンタカーの価格高騰を引き起こす原因となっている。

このような傾向は、他の地域でも同様に発生すると考えられる。新型コロナ流行により、他のお客さまと同乗する交通機関を敬遠する動きがあるからだ。都市部に近い自家用車で行ける一部地域を除いて、レンタカーやタクシーの需要は今後高まっていくだろう。

交通の便の悪い旅館・ホテルは早期に対策を講じておいた方が良い。具体的には、タクシーやレンタカー事業者との提携、プラン化、観光タクシーのあっせん、シャトルバスの運行、敷地内駐車場におけるカーシェアリングの導入などである。特に電車や路線バスが減便、地域のタクシー運転手数が減少する地域にある施設は早めに対策を講じた い。いくら万全の運営体制をとっても、お客さまが自施設や周囲の観光スポットに行く手段が限られていれば、稼働率を上げることは困難だからだ。

（アルファコンサルティング代表取締役）

新型コロナ対策の功罪 ③

オマツリジャパンの毎週祭日〈138〉

上野から電車で3駅、北へ進むと、王子という駅に着く。プリンスを意味する王子様かと思えばそうではなく、地名の由来は王子権現に由来するそうだ。この王子権現は王子神社と名を変え、今でも王子駅近くに佇んでいる。そんな立派な神社のある王子だが、古くから風光明媚な場所として知られてきた街でもある。桜の名所、飛鳥山は徳川吉宗が行楽地として整備し、1873（明治6）年には日本で初めての公園として指定された場所だ。また、王子七滝という言葉が残るように水の豊かな地としても知られ、歌川広重の名所江戸百景にも描かれる江戸っ子憩いの場でもある。

王子には毎年2月の午（うま）の日に行われるお祭りがある。凧（たこ）市だ。凧市が行われるのは王子稲荷神社。駅から延びる商店街を北に進むと、崖の上に現れる真っ赤な社殿が目印となっている。こちらの創建は平安時代で鎮守府将軍だった源頼義（源頼朝の6代前の先祖）によって「関東稲荷総司」という称号が付けられるなど歴史ある神社だ。現在の社殿は徳川家斉が寄進したもので、その豪華さは目を見張る。

凧市は、稲荷神社特有の初午祭に合わせて行われている。その中でも王子稲荷神社の特徴は、なんといっても凧だ。奴さんやキツネが描かれた凧が境内の露店に並んでおり、大小さまざま、表情豊かに描かれていてユニークである。

なぜ凧なのかというと、火事除けの願いが込められているのがポイントだ。凧市が行われる2月は昔から火事が発生しやすい時期であり、火事とけんかは江戸の華という言葉もあるが、大火が多かったこの時期に「風を切る」凧を火防の縁起物として江戸の人たちが扱うようになったんだとか。そのため凧には、「火防凧」や「火防御守護」「火の用心」なんて言葉が書かれている。凧の力で、空気の乾くこの時期を乗り越えたいという願いがこもっているのだ。

凧を手に入れたら、王子名物の卵焼きも一緒に手に入れたい。駅の方へ戻って求めてみよう。

（お祭りトラベラー・高橋佑馬）

▽オマツリジャパンは日本初の祭りサポート専門会社。omatsurijapan.com

稲荷神社の使い、白狐が描かれる火伏凧

初午に手に入れたいのは凧
王子稲荷神社の凧市（東京都北区）